

[029]九州人類学会報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2338935>

出版情報 : 九州人類学会報. 29, 2002-07-06. Kyushu Anthropological Association
バージョン :
権利関係 :

巻 頭 言

よそおいを新たにして二年目の九州人類学研究会報 29 号をお届けします。前号で書いたように、例会の発表を活字にするという従前のやり方を改めて、会員の投稿による研究誌になりました。今号には、論文 5 本、研究ノート 1 本が集まりました。慶賀すべき数と思いますが、まだまだ考えなければならないことがあります。

ご覧いただければお分かりのように、投稿者は圧倒的に九大に片寄っています。それも箱崎の院生たちに偏しています。もちろん歴史的には博士課程をもつ再生産機構としての大学が九州地区では九大だけだったいきさつがあります。しかし現在では、西南学院大学、熊本大学をはじめとして博士課程をもつ大学があり、修士課程をもつ大学も各地に増えている状況です。全国の傾向を見ても、『民族学研究』の投稿者は、老舗の東京都立大学・東京大学・南山大学よりも、後発のさまざまな大学からのものが主流を占めている現状があり、願わくばこの傾向が九州でも実現できればと思うのです。まだ時間が必要なかもしれませんが、どうか各地・各大学の院生・若手研究者諸君は、臆さずふるって投稿されますように。まずその心理的なカベを低く低くして、自分の知りたいことと伝えたいことへの意欲を高く高く構えられますように。また先生方もご自分の投稿に加えて、院生諸君への日常的な励ましをお与えくださいますよう。そうした積みかさねがあつて、はじめて九州地区全体の学問的水位が向上するのだと考えるからです。『民族学研究』のように対象地域の専門家による査読ができる万全の体制ではありませんが、われわれも全力を挙げてよりよい論文になるよう個々に対応いたします。

さて九州人類学研究会は今年で満 30 年を迎えます。次号が第 30 号なので、記念特集を組みたいと考えますが、その前に会報バックナンバーの整備と復刻という課題がありました。これまでは主要な図書館および研究室への納入がなく、刊行すれども会員以外には読まれない状態でした。リプリントは、しかしながらあまりに高くつき不可能。そこで中西編集長の発案で、バックナンバーの CD-ROM 化を試みました。これは、なによりわれわれ自身の研究室や図書館ですぐ参照できる体制にしたいからです。さらには各地の公共図書館・各大学研究室に頒布し、できれば今後の号も継続購入してもらえるよう努力したい。これができれば研究誌としての社会的認知が高まる以上に、書き手の書き甲斐もおおいに高まるでしょう。詳しくは CD-ROM に解説しますが、欠号の探究等で昔からの会員のみなさんにずいぶんとお力添えいただきました。ありがとうございました。また、先生方・院生諸君には、これから、この CD-ROM ならびに継続号の各大学での購入や、学会（日本民族学会、日本民俗学会等）での会場販売にご協力くださいますよう。

最後になりましたが、昨年、二名の会員が亡くなられました。初期からの会員・永井昌文さん（元九大医学部）と、第二世代の中核だった浜本まり子さん（共立女子大）のおふたりです。永井さんには、草創期の経緯とともに綾部恒雄さん（初代会長）に、浜本さんには友人として清水展さん（三代会長）に、それぞれ追悼の稿を寄せていただきました。おふたりのご冥福をお祈りいたします。